

本部等運営（初動対応）訓練

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
複合災害を想定した災害対策本部事務局の運営	・複合災害時を想定した災害対策本部事務局(原子力班)の初動対応手順が確認できた	・図上訓練や情報伝達訓練等の実施等を通じて、初動対応手順の確認・要員の練度向上に、継続的に取り組んでいく。	
災害対策本部とオフサイトセンターとの連携	・県からオフサイトセンターに対して、機能班の要員を派遣するとともに、情報連絡員を派遣して、県災害対策本部との連携及び調整を行う一連の対応手順が確認できた。	・訓練の状況を踏まえ、情報連絡員の活動内容等を整理し、マニュアル等に反映させていく。	
国、OFC、2県6市のテレビ会議による、各自治体の対応状況等についての情報共有	・原子力防災ネットワークを活用したテレビ会議を実施し、国(中央)、島根OFC、島根県等の2県6市と情報伝達手順を確認することができた	・引き続き、テレビ会議システムをはじめ、様々な手段を活用した情報伝達体制を確保していく。	

本部等運営（初動対応）訓練の概要

本部等運営訓練

鳥取県災害対策本部
鳥取県庁災害対策本部室



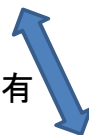
オフサイトセンター



情報伝達・共有



情報伝達・共有



鳥取県現地災害対策本部
西部総合事務所



広報・情報伝達訓練実施要領訓練

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
関係機関への情報 伝達	<p>[HP、メール、SNS等の独自広報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象の進展に伴う広報の内容及び情報発信手順について再確認した。 <p>[道路情報表示板による広報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路情報表示板による広報の手順について再確認した。 	<p>[HP、メール、SNS等の独自広報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の訓練では、みなし実施であったため、改善等に係るコメントは特になし。 <p>[道路情報表示板による広報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に改善事項なし。 	
報道機関との連絡 調整	<ul style="list-style-type: none"> ・的確な報道対応について手順等を再確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の訓練では、みなし実施であったため、改善等に係るコメントは特になし。 	
一時滞在者への広 報・情報伝達 [外国人観光客向けの 外国語による広報訓練]	<ul style="list-style-type: none"> ・観光施設への情報伝達手段の確認と外国語での広報伝達に関する手順を確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客等へのSNSを活用した情報発信について、今後、検討を進めていく。 	

広報・情報伝達訓練の概要

《報道機関等資料提供・独自広報発信 等》



(災害情報提供システム)



鳥取県原子力防災アプリ、
ホームページ、トリピーメール、
ツイッター等

《道路情報表示》



《外国人・観光客等一時滞在者への広報》

(夢みなとタワー)



緊急時モニタリング訓練

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
緊急時モニタリング計画及び実施要領に基づく緊急時モニタリングの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・所定の要員が実動し、手順の確認や操作の習熟が図られた。 ・通信機器、汚染検査会場の設置を行い、手順等の確認ができた。 ・より迅速に活動するためには作業の効率化、機器取扱いの熟度向上を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の検証を踏まえ、今年度内に、報告様式等を見直し、実施要領の改訂を行う。 ・操作や手順のマニュアル整備を進めるとともに、直感的に理解できる記載に改良していく。(ビジュアル化) ・引き続き、要員の教育・訓練を定期的実施し、技術の熟度向上・維持を図っていく。 	
モニタリング情報共有システム等による情報の伝達、報告、共有	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有システムにより、現場要員と連絡・報告・共有を円滑に行うことができた。 ・ノートDBによる情報の送受信は、クロノロを兼ね、情報共有の方法として効果的であることを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、情報共有システムを円滑に操作できるよう機器取扱いの習熟を図っていく。 ・円滑かつ効果的な情報伝達、共有の方法について、更に検討し改良していく。 	

緊急時モニタリング訓練

モニタリング本部の設営

【原子力環境センター】

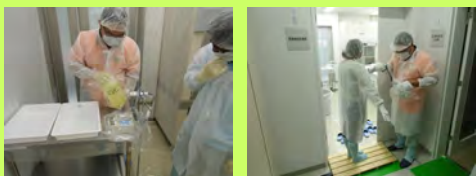
○本部長、企画、情報チーム等

- ・情報収集、活動指示書作成
- ・モニタリングポスト等の連続監視
- ・結果とりまとめ 等



○分析チーム

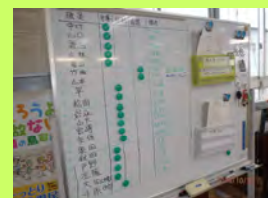
- ・試料受入れ、放射能分析 等



【西部生活環境局】

○機動モニタリングチーム

- ・可搬型ポスト、モニタリング車、サーベイメータ等による測定
- ・情報共有システム等による結果伝送・報告
- ・試料採取 等
(参加機関：西部生活環境局、中国電力)



情報共有システム
測定結果等の共有

【現場】



連絡・報告

24

○災害対策本部 原子力班【県庁】

○緊急時モニタリングセンター(EMC)【松江市】

住民避難訓練（在宅要支援者等避難含む）

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
多様な避難手段による住民避難の実施	<ul style="list-style-type: none"> ①多様な避難手段を訓練に組み込むことにより、応用力を高める訓練となった。 ②県内に配備された陸上自衛隊大型ヘリ(CH-47)を初めて活用し、避難者や医療関係者等を多数、搭載できるなど、避難等の災害対応に有効であることが確認できた。 ③海路による避難は、気象(特に海象)の影響を受けることをあらためて確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各避難手段の特性や使用条件、自衛隊等の実動機関との連絡・調整要領等を整理し、引き続き多様な避難手段を組み込んで訓練を実施していく。 ②大型ヘリについては、中型ヘリ等に比べて着陸可能な場所が限定されることから、空港以外で離着陸可能な場所を事前に見積もっておく必要がある。 ③船舶訓練について、今回の訓練で検証できなかった事項(住民を乗せての鳥取港入港、船舶側の受入対応等)について、訓練実施時期等を実動機関と調整し、来年度以降検証していく。 	
聴覚障がい者や外国人など、それぞれの状況に対応した手順の確認	避難退域時検査会場において、検査手順等をイラストを交えたわかりやすい日本語及び外国語で説明した資料等を作成し、検査方法等の説明を行った。	訓練で作成した資料の内容、避難誘導の方法等、訓練に参加いただいた方の意見を踏まえながら継続的に改善を図っていく。	

住民避難訓練（在宅要支援者等避難含む）の概要

JR避難



バス避難



船舶避難(8/18)





避難退域時検査会場
(中山農業者トレーニングセンター)

避難先(鳥取市)

緊急避難



緊急避難・要員輸送(10/27)



避難行動要支援者避難訓練（障がい者支援施設）

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
施設の避難計画の確認及び実行性の検証 ・退避エリアの整備、利用者の誘導 ・陽圧機の起動手順の確認	・施設長の指揮のもと、各班が計画に定められたそれぞれの役割を迅速に実施することができた。 ・退避エリアへの物品の搬入ルートをあらかじめ確保できたことで利用者の誘導と重ならず、避難誘導をスムーズに行うことができた。 ・退避エリアに集まった利用者を安心させるような声掛けが足りていなかった。 ・陽圧機については、スムーズに起動準備を行え、稼働することができた一方で、タイベックスーツの着用に時間がかかった。	・今回は利用者を屋内の退避エリアに避難させるところまでの実施となったが、次回以降は屋外退避の際の手段等（福祉車両、低床バス等）を検討の上、屋内退避～屋外退避まで実施したい。 ・訓練実施機関である光洋の里は毎年訓練を実施しており、今回の訓練も非常にスムーズに実施することができた。日頃からの訓練が避難計画等の実行性をより高めることとなるため、各施設においても、同様に定期的な避難訓練を実施する。	
関係機関の情報伝達及び連携の確認	・県、境港市及び施設間での情報伝達手順が確認できた。 ・想定している伝達手段が使えない場合の対応をどうするか。	・関係機関等との情報伝達について今後とも訓練等を通じてより習熟させていくと共に、想定している伝達手段が使用できない時の代替手段を検討する。	

避難行動要支援者避難訓練の概要（障がい者支援施設）



陽圧機作動手順確認



物品搬入 & 退避エリア整備



避難誘導



災害本部立上



関係機関との連携



避難行動要支援者避難訓練（入院患者の転院搬送）

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
患者情報の伝達、 引継ぎ	実際の発災時には、短時間で患者申し送り事項を整理するのは難しいと思われる。搬送患者に同行する医療チームに玄関前(屋外)で情報伝達を行ったが、屋内で行ったほうがよかったのではないかな。	患者人数が多い場合にも、今回使用した患者情報シートが使えるのか、迅速性と的確性を勘案しながら、様式や必要情報の絞り込みなどを検討。また、患者に不安を与えないように、声をかけるなどの気配りが必要。	
搬送先における避難患者の受入れ	搬送先までの同行は、医師、看護師で構成される医療チームにより行ったが、転院先や患者が複数となった場合にはどう対応するか検討を行う必要がある。	転院先や患者が複数となった場合の付添い体制、転院搬送手段について、引き続き検討を行う必要がある。	
搬送に際しての支援者(医師又は看護師等)の同行	患者情報の伝達をクリニックの玄関前で行ったが、聴取りにある程度の時間を要する場合には、施設内で行うほうがよいのではないかな(再掲)	患者情報を迅速、的確に伝達するため、必須項目の絞り込みなどを検討(再掲)	

避難行動要支援者避難訓練（入院患者の転院搬送）の概要



①真誠会セントラルクリニックに入院している患者を県立中央病院へ空路搬送するため、陸上自衛隊救急車にて美保基地へ患者を搬送。



②美保基地にて航空自衛隊C-2輸送機に患者を乗せ換乗、鳥取空港へ。着陸後、東部消防局救急車にて搬送。

学校等の避難訓練

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
<p>①通信連絡訓練 (今後実施予定) 緊急時における 学校等と関係機関 との通信連絡訓練</p>	<p>各学校等において、防災マニュアル・避難計画に基づいて、様々な想定の下で訓練を実施することで、原子力災害発生時の役割分担、保護者引き渡し方法など、具体的な対応手順を把握・確認することができた。</p>	<p>訓練の実施を通して、各学校における防災マニュアル・避難計画の見直しに反映させ、引き続き計画と訓練の実効性を高めていく。</p>	<p>通信連絡訓練は今後実施予定</p>
<p>②屋内外退避訓練 災害発生を想定し、 屋内外への退避行動、 安否確認について訓練 を行い、手順等を確認。</p>			
<p>③保護者引き渡し訓練 児童生徒を保護者へ引き 渡す訓練を行い、保護者 への連絡、引き渡し手 順について確認。</p>			

学校等の避難訓練の概要

【学校における避難訓練事例】

○境高等学校屋内避難訓練（休日想定）

期 日 平成30年9月8日（土）

参加者

- ・ 部活動、土曜学習で登校した高校生（192名）
- ・ スクールプロジェクトに参加した小学生（31名）
大学生（2名）教職員（13名）その他（2名）

計240名

実施状況

- (1) 避難放送
- (2) 屋内退避（管理棟3階）
 - ・ スクールプロジェクトに参加児童は担当教員の指示のもと避難
 - ・ 部活動中の生徒は顧問と避難
 - ・ 担当教員、顧問は人員確認状況を教頭へ報告
 - ・ 参加者に対し教頭から講評
- (3) 訓練終了